|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 患者氏名 |  | 患者ID |  |
| 生年月日 |  | 年齢 |  | 身長 | ㎝ | 体重 | kg | BMI |  |
| **① 全身状態のリスク**有の場合に☑ | リスク回避策 | **回避策実施**有に☑（実施内容） |
| □　血管内脱水 | 末梢静脈からの補液などで脱水の改善を検討 | □（　　　　　） |
| □　るい痩（BMI＜20） | 穿刺の深さを特に注意（るい痩は誤穿刺のリスクが高い）短い針を使用することを検討 | □（　　　　　） |
| □　肥満（BMI＞30） | 穿刺の深さを検討（標的静脈が深く誤穿刺のリスクが高い）代替療法を検討 | □（　　　　　） |
| □　血液凝固障害 | 血小板輸血、凝固因子などの補充を検討 | □（　　　　　） |
| □　抗血栓薬の使用 | 抗血栓薬の休薬を検討 | □（　　　　　） |
| □　呼吸器疾患 | 穿刺部位を再度慎重に検討（鎖骨下静脈穿刺・内頚静脈穿刺における健側肺の気胸などの発生リスクを避ける） | □（　　　　　） |
| □　体位制限（円背、起坐呼吸） | 電動ベッドなどで下肢挙上を検討（心臓より高い位置の穿刺部位は空気塞栓症のリスクとなる） | □（　　　　　） |
| □　不穏、意思疎通困難 | 中心静脈穿刺の適応を再考する。場合によっては鎮静下の施行もあり得るが、鎮静による合併症にも注意が必要 | □（　　　　　） |
| □　生命予後が著しく不良 | 再度適応を慎重に検討 | □（　　　　　） |
| **② 解剖学的リスクの確認** | 確認項目 |
| 標的静脈 | □ 内頚静脈（右・左）　 □ 鎖骨下静脈（右・左）□ 大腿静脈（右・左） □ 上腕の静脈（右・左）PICC |
| 太さ：　　　　　㎜　　　　　虚脱：□ 有　　□無　深さ：　　　　　㎜ |
| 内頚静脈と総頚動脈との位置 | □ 離れている | □ 一部重なっている | □ 完全に重なっている |
|  |  |  |
| 静脈の背後にある器官 | □ 有（□ 動脈 □ 肺 □ 神経 □その他：　　　　　　　　）□ 無 |
| **挿入の総合判断（①,②）** | □ 挿入　（□ 透視併用）　　□ PICC挿入　 　　　　 □ 挿入中止 |
| **穿刺部位** | □ 内頚静脈（右・左）　 　□ 鎖骨下静脈（右・左）□ 大腿静脈（右・左） 　 □ 上腕の静脈（右・左）PICC |
| **備考** |  |
|  |  |
| **タイムアウト実施時の確認** |
| 中心静脈カテーテル挿入に関する同意 | □ 有　　　　□ 無　(理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　) |
| アレルギー | □ 有 （□ アルコール　　□ ヨード　　　□ 造影剤）□ 無 |
| 手技中のモニター | □ 心電図　　　　　　　　□ 血圧　　　　□ 酸素飽和度 |
| 術者 | 氏名 |
| 中心静脈カテーテル挿入ライセンス | □ 有：院内あるいは学会など□ 無 |
| 介助者 | 氏名 | 指導者 | 氏名 |
| 術者交代・カテーテル挿入中止のルール | **（組織のルールを記載する）**<例> 同一部位、同一術者で3回の穿刺でカテーテルを挿入できなかった場合：より経験の豊富な術者と交代（交代は1回まで）あるいは、中止 |